



展覧会名	Olive1982-2003 雑誌『オリーブ』のクリエイティビティ		
会期	2012年2月25日(土) → 7月1日(日)		
	開場時間 / 10時~18時 (金・土曜日は20時まで)		
	休場日 / 月曜日(3月19日、4月30日は開場)		
会場	金沢21世紀美術館 デザインギャラリー	料金	無料
出品点数	オリーブバックナンバー 434冊 (全442冊発行)		
主催	金沢21世紀美術館 [(公財)金沢芸術創造財団]		
協力	株式会社 マガジンハウス		
お問い合わせ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800		

## 展覧会について

### なぜ『オリーブ』なの？

80年代から90年代にかけて少女時代を過ごした女性たちにとって雑誌『オリーブ』は、人気が高かったというだけでなく、特別な雑誌でした。かつてオリーブ少女と呼ばれた読者たちは、いま30代、40代となり、オリーブの感性がいまなお生活のなかに息づいています。ファッション誌でありカルチャー誌であった『オリーブ』の誌面には、心地良いライフスタイルの提案とクリエイティブな視点が存分に込められていました。本展覧会では、バックナンバーの分析と、『オリーブ』の制作に関わった人々と読者たちの声を集め、『オリーブ』の本質に迫ります。そして、時代を代表する『オリーブ』という雑誌から、「雑誌の時代」を検証するとともに、「現在」としての少女文化(ガーリッシュ・カルチャー)について考えていきます。

## 展覧会の特徴

### 3つの視点から『オリーブ』とは何だったのか検証します。

デザインギャラリーには1982年から2003年までに発行された『オリーブ』全442冊のうちバックナンバーを434冊集めました(2月24日現在)。多くのひとたちが感じる『オリーブ』の影響力とは具体的に何だったのか分析します。

#### ①『オリーブ』のクリエイティビティ

1つ目の視点は「『オリーブ』のクリエイティビティ」。『オリーブ』のアイコンでもあるリセエンヌも「チープ・シック」として紹介され(13号、1982)、誌面のファッションそのままではなく、「アイテムよりもセンスが大切」で、自分のスタイルを持っていることが『オリーブ』では大切にされていきます。ファッション提案もそれぞれのオリーブ少女のなかで消化され、自分スタイルを育てていきました。ファッションに関わるデザイナーやスタイリストという職業としてのクリエイターを紹介し、またキュレーターやフードコーディネーター(184号、1990)などの新しい職業にもいち早く注目し、読者に紹介していました。読者たちのなかにクリエイションに関わる仕事に多くついているのは、そうした『オリーブ』が持っていた「クリエイティビティ」の要素にあったと考え、わかりやすく具体的な分析を試みます。

#### ② かつてのオリーブ少女たちへアンケートを実施

2つ目は読者であるオリーブ少女たちの視点。株式会社マガジンハウスの協力により、かつてのオリーブ少女たちへのオンラインアンケート(有効回答174件)を実施し、展示で紹介していきます。『オリーブ』の思い出と、仕事や生活のなかで、今、『オリーブ』の影響を感じることにについて調査し、『オリーブ』の培われた感性が今につながっていることを個々の言葉より明らかにします。『オリーブ』の影響力を「声」というかたちで集め、イメージを具体化していきます。

#### ③『オリーブ』の教え

「共同作業をする女子校の文化祭みたい」(吉場幸江インタビュー、『talking about 私とおしゃれ』n100出版、2011)、「仕事が部活みたい」(岡尾美代子、『クロワッサン』-オイルミルズ広告、2009)、「幼稚園か小学校の職員室というか、みんな和んじゃってるんですよ」(絵本でも作ってるような雰囲気)(新谷雅弘、『Quest』2006)。『オリーブ』編集部は読者と一緒に楽しみ、一緒にかわいいものを発見し、つくり出すという感覚に満ちていたと多くの方が口にします。『オリーブ』の制作に関わった人たちの声をトークプログラムで展開し、リアルな『オリーブ』の実像に迫ります。

## アート・ディレクション

### 新谷雅弘氏

ちらし、ポスター、会場構成など本展覧会のトータル・アート・ディレクションを新谷雅弘氏に依頼しました。『オリーブ』の分析を『オリーブ』的に見せます。



#### プロフィール

『アンアン』の立ち上げにアートディレクターとして関わった以降、『ポバイ』『ブルー・タス』『オリーブ』『ハナコ』『鳩よ!』などマガジンハウスの多くの雑誌の創刊時からアートディレクターとして関わる。『オリーブ』では創刊より218号(1991年)までアート・ディレクターを務めた。2011年まで多摩美術大学講師として6年間雑誌デザインの指導にあたる。本展では、ちらし、ポスター、会場構成等、展覧会のトータル・アート・ディレクションを手がけるとともに、4月14・15日に2日間連続の「『オリーブ』流 雑誌デザイン・ワークショップ」を開催。

## 関連プログラム

## 嶽本野ばらトーク「『ひまわり』から『オリーブ』まで」

[日時] 2012年3月24日(土)14:00~16:00 [会場] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

[料金] 無料 [定員] 80名

※当日10:00レクチャーホール前にて整理券を配布します。

2



嶽本野ばら

京都府宇治市生まれ。1998年、前年までの6年間、関西のフリーペーパーで連載したエッセイをまとめた『それいぬ——正しい乙女になるために』(国書刊行会)が単行本化。以降雑誌などにエッセイを発表して少女たちの支持を集める。2000年、書き下ろし小説『ミシン』(小学館)で作家デビュー。2003年『エミリー』(集英社)、2004年『ロリキタ。』(新潮社)が三島由紀夫賞候補に。2004年、『下妻物語』が映画化。

『オリーブ』の読者として影響を受けたひとりで、『オリーブ』についてのエッセイもある。『オリーブ』誌面には2回登場。1999年4月13日号(387号)では、「少女の神様 中原淳一さんを知っていますか?」という4ページに渡る記事の案内役を務めている。

## 新谷雅弘「『オリーブ』流 雑誌デザイン・ワークショップ」

[日時] 2012年4月14日(土)、15日(日)10:00~17:00 (2日間連続、両日とも)

[会場] 金沢21世紀美術館 会議室1 [料金] 3,000円(材料費込)

[定員] 15名(先着順) [電話予約] 076-220-2801(学芸課)

全14時間で、みんなで1冊の雑誌をつくる、ワークショップです。

1冊の中の2ページをそれぞれが担当し、制作します。

どう考え、どう形にするか、その根拠は?

雑誌という場で自分がどういう形で関与するかを試行してみてください。

自分が作るのは2ページだけですが、雑誌全体がどう創られるのか、参加しながら経験します。

参加者が1冊ずつお持ち帰りできます。(新谷雅弘)

ほか、元『オリーブ』編集長の遠山こずえ+岡戸絹枝(6/3)、淀川美代子(6/9)、スタイリストの大森仔佑子(開催日未定)によるトークを開催する予定です。

## 広報用画像

画像1~10を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。 Email: press@kanazawa21.jp

&lt;使用条件&gt;

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送り下さい。

※アーカイブの為、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力の程、何卒よろしくお願いたします。

3



「Olive1982-2003 雑誌『オリーブ』のクリエイティビティ」  
展示風景  
金沢21世紀美術館

4



「Olive1982-2003 雑誌『オリーブ』のクリエイティビティ」  
展示風景  
金沢21世紀美術館

## 参考



金沢21世紀美術館ポッドキャストラジオにて本展を紹介しています。  
併せてご参照下さい。

■まるびい RADIO MAGAZINE 2012.3.1 配信号

<http://www.marubiontheradio.com/>

## 『オリブ』年表



『オリブ』創刊号表紙(1982年6月3日)



『オリブ』102号表紙(1986年11月3日)



『オリブ』133号表紙(1988年3月18日)



『オリブ』160号表紙(1989年5月18日)



『オリブ』375号表紙(1998年9月18日)

## ■ 1982

雑誌『ポパイ』の女の子版として『オリブ』創刊。(1982年6月3日号)

## ■ 1983

9月3日号(29号)より『オリブ』はキャッチフレーズも「Magazine for City Girls」から「Magazine for Romantic Girls」に変え、路線を大きく変更。対象読者も女子大生から中高生に変わり、「オリブ少女」という言葉が使われる。12月3日号(35号)で「リセエンヌ」がオリブ少女の憧れとして紹介され、初期『オリブ』のイメージを作りました。

## ■ 1984

街角スナップで話題になった栗尾美恵子が『オリブ』専属読者モデルになりました。8月18日号(51号)で初めて「雑貨」という言葉が使われるようになりました。

## ■ 1988

3月18日号(133号)「はだかのオリブ」の「自然とちょっと仲良くして、自分のからだを大切にしよう!」というメッセージは、オリブ少女のナチュラル志向を方向づける特集でもありました。7月3日号(140号)では1986年のチェルノブイリの事故を受けて「原子力発電所は、ほんとうに安全なの?」という記事を掲載。

## ■ 1989

5月18日号(160号)では「オリブ少女は、かわいいナチュラルリスト」と宣言。環境問題に社会の関心が高まるなか、『オリブ』にとって自然と仲良く暮らすこと、シンプル&ナチュラルが大きなテーマになっていきました。

## ■ 1991

6月3日号(207号)よりキャッチコピーの「Magazine for Romantic Girl」が消え、「オリブ調査隊、GO!」や「わたしだって「オリブ・モデル」」の連載など読者参加型の企画が増えていきます。11月18日号(218号)「雑貨グランプリ」も始まり、「雑貨の『オリブ』」のイメージが定着していきます。

## ■ 1992

5月3日号(224号)の読書特集や12月3日号(242号)の映画特集など、カルチャー全般にわたって紹介する特集が増えました。また、アイドルも多く登場し、表紙にも頻繁に登場するようになりました。

## ■ 1994

市川実日子が専属モデルに。90年代の『オリブ』を象徴する存在になっていきます。

## ■ 1995

9月18日号(283号)より小沢健二「DOOWUTCH ALIKE」連載がスタート。

## ■ 1998

「カフェ・グランプリ」がスタート(9月18日号、375号)。この号で市川実日子が専属モデルを卒業。

## ■ 2000

7月18日号(417号)で休刊。

## ■ 2001

休刊から1年後の6月、「オリブ少女」から「オリブガール」にコンセプトを変え、月刊誌となりました。旧『オリブ』のスタッフが一新され、全く新しいおしゃれでガーリィな雑誌になりました。対象読者も20代へと変わっています。

## ■ 2003

8月号(442号)で『オリブ』は休刊となり、現在に至っています。かつての読者は『天然生活』や『クウネル』などを読んでいるケースが多いと言われていますが、どこか物足りなさを感じていることが本展で集めたアンケートからも伝わってきます。今の雑誌にはない、時代を先どるクリエイティブで刺激的な感覚が『オリブ』にあったといえるでしょう。

制作:高橋律子(金沢21世紀美術館キュレーター)

## 参考:

「オリブ少女と一緒に育った9年間のメモリアル」(『オリブ』No.200,1991.2.18)  
「知ってる?オリブがバイオニアだった、ガールズ・フォト・ストーリー」(『オリブ』No.421,2001.11)  
「オリブへのラブレター」(『レタァ』No.1,2005.10.5)  
「OLIVE博物館」(食と暮らしの古本屋 \*eclipse plus / feature! <http://www.cookbooks.jp/kf-1/kf-1.html>)  
「雑誌Olive (オリブ)」(古本海ねこ <http://www.umi-neko.com/book/olive-49.htm>)